

病理情報

- 1 . 病理組織診断は確定診断にならないことが多々あります。皮膚炎症性疾患、大腸腺腫などの境界病変、灰色病変など、診断不能例や疑い診断が、約5%にあります。米国では良悪性の誤診が1%あり、2%までが許容範囲とされています。
- 2 . 生検で分からない例は免疫染色等をしますので、1 - 2週お待ち下さい。その頻度は約7%です。
- 3 . 生検のダブルチェックはしていません。本来2名以上の常勤病理専門医が必要なのに、1人病理医体制です。そのかわり、何回も診るように努力しています。
- 4 . 病理診断は病理医からの意見書です。臨床の先生方は肉眼、画像など総合的に判断してください。
- 5 . 細胞診は主にスクリーニングのためで、細胞診で陽性とでも、生検をして下さい。
- 6 . 病理解剖の診断はダブルチェックしています。結果がでるまで5 - 6ヶ月お待ち下さい。
- 7 . 迅速診断がないと分かった時点で、その旨を速やかに病理科に電話してください。
- 8 . 病理診断に疑問等を感じたら、病理医（PHS 6135）まで、ご連絡下さい。